

平成26年度経営講演会



講演会風景



小坂経営委員長開会挨拶

日本の雇用環境は、終身雇用制度が流動化しつつあり、一方では急激な高齢化の進行と年金支給開始年齢の引上げ等に対応し、定年後の継続雇用制度など高齢者の就業環境の整備が進められています。

このような中、建設産業においては離職者の増加、従業員の高齢化、若手入職者の減少といった構造的な問題が、ますます顕在化しつつあります。

そこでこれらの環境変化を踏まえ、将来を見通した従業員の福利厚生のあり方を会員で今一度再考していただく機会として、平成26年度経営講演会のテーマを「退職金制度と年金制度について～従業員が働きやすい職場づくりに向けて～」と設定し、開催しました。

また、今日的なテーマと考えられることから、講演会は会員の便宜も勘案し、神戸市内の兵庫県中央労働センター（12月4日（木））及び姫路市内の姫路・西はりま地場産業センター（12月10日（水））の2会場で開催しました。

講師は、両会場とも社会保険労務士の小國佳代氏にお願いし、会員企業から経営者や幹部社員など両会場合わせて29名の参加がありました。

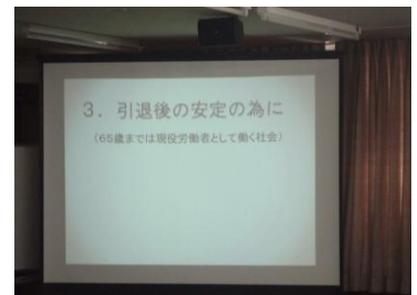
講演は、まず退職金制度と年金制度の趣旨の違いから始まり、終身雇用制度が流動化しつつある中で、退職金の考え方が変わりつつある。一方では、年金支給開始年齢が段階的に引き上げられていく中で、引退後の生活の安定をどう確保していくかという問題意識のもとに進められました。

そして年金の上積的制度である年金基金制度や個人年金などに加え、最近企業に導入が進みつつある、いわゆる「401K」といわれる確定拠出年金について、確定給付年金と対比しつつ、企業型と個人型の区分を含め制度の説明が行われました。

最後に講師からは、働きやすい職場づくりがあってこそその退職金制度であり、年金制度であるとの視点を大切にして欲しいとの指摘があり、福利厚生のあり方を改めて確認する場となりました。



講演始まる



講演のポイント